

宮城県南部地域養殖復興プロジェクト養殖復興計画書
(宮戸西部支所ノリ部会)

地域養殖復興プロジェクト名称	宮城県南部地域養殖復興プロジェクト		
地域養殖復興プロジェクト運営者	名称	宮城県漁業協同組合	
	代表者名	理事長 阿部 力太郎	
	住所	宮城県石巻市開成1番27	
計画策定年月	23年12月	計画期間	24年1月～26年4月

1 目的

宮戸西部支所は宮城県南部に位置し、ノリ養殖が盛んな地域で、ノリの生産額は宮戸西部支所の生産額の9割を占める重要な産業である。しかしながら、東日本大震災による津波により、洋上の養殖施設、陸上の生産施設、養殖生産物が壊滅的な被害を被った。

そのため、被災からの復興を目指すため、当地域の主要養殖のノリ養殖業者5経営体が共同体を組織し、共同化によるコストの削減等を行うことで、経営の再開と安定を目指す。

2 地域養殖復興プロジェクト参加者等名簿

○宮城県南部地区養殖復興協議会

	所属	役職	氏名
養殖関係	宮城県漁業協同組合	理事	小野秀悦
養殖関係	宮城県漁協塩釜総合支所	運営委員長	千葉真澄
養殖関係	宮城県漁協塩釜総合支所	支所長	佐藤淳一
地方公共団体	宮城県仙台地方振興事務所	水産漁港部長	菅原信彦
地方公共団体	東松島市	農林水産課長	及川康之

○宮戸西部支所ノリ部会

	所属	役職	氏名
養殖関係	宮城県漁協宮戸西部支所	運営委員長	小野孝一
養殖関係	宮城県漁協宮戸西部支所	ノリ養殖業者	設楽善則
養殖関係	宮城県漁協宮戸西部支所	ノリ養殖業者	桜井健甲
地方公共団体	宮城県仙台地方振興事務所	水産漁港部主幹	佐藤 崇
地方公共団体	東松島市	農林水産振興班長	石崎恒雄

3 震災前の養殖業の概要

宮戸西部支所は養殖が盛んな地区の支所であり、ノリ養殖が主な養殖種類となっている。平成21年度（生産年度）の生産額はノリ養殖で3.7億円であり、その他の養殖としては、カキ養殖で0.1億円の生産を行っている。養殖以外では、あさり漁業があり、生産額は0.2億円となっている。

・震災前の施設等の状況

施設名	所有者（個人・共同利用の別）	規格	施設数
養殖施設	個人所有	別紙①のとおり	里浜 59台×4名 月浜 77台×1名
のり加工施設	共同利用（宮城県漁協所有）	764㎡ 1階建	1棟
のり乾燥機	共同利用（宮城県漁協所有）	・全自動ノリ乾燥機（20連） ・附帯設備	2台 一式
作業船（積み船）	個人所有	約2トン（30-34尺）	5隻（1人1隻）
作業船（網洗い船）	個人所有	約0.8トン（約25尺）	5隻（1人1隻）
作業船（作業船）	個人所有	約0.7トン（16-25尺）	10隻（1人2隻）

4 被災状況

	規格及び数量	被害金額	被災内容
養殖施設	里浜 59台×4名	3,540万円 (15万円×59台×4名)	滅失
	月浜 77台×1名	1,386万円 (18万円×77台)	
のり加工施設	1棟	2,000万円	損壊
のり乾燥機	20連2台	6,000万円 (本体、附帯施設一式(2台分))	機械一式被災
作業船(積み船)	1隻 32尺	600万円(3隻合計)	滅失
作業船(作業船)	2隻 25尺・23尺		
養殖生産物		5,000万円(1名1,000万円×5名)	流出

5 計画の内容

(1) 共同化の取組

○ 加工処理の共同化(プール制度の導入)

・これまでの取組

これまで、ノリの乾燥機を宮城県漁業協同組合の共同利用施設として導入し、乾燥工程にはオペレーターを配置するなどして効率的な生産や施設導入費の削減に取り組んできた。

・これまでの問題点

養殖生産は個別で行い、生産されたノリの加工処理は共同の乾燥機を使用しながら、個人毎に加工処理作業を行ってきた。そのため、各経営体が使用するたびに機械のノリ結束テープの切替に時間がかかり、生産過程上の経費や生産物のロスが多発に発生していた。また、乾燥機を続けて使用するために経営体の交代時間のロスで重油の空焚きがあり、そのため重油の消費が過大になっていた。

・全面共同化の取組

より効率的に生産を行うため、加工処理の全面共同化に取り組む。具体的には、個人毎の養殖生産物を区別せずに生産金額をプールする形で加工処理を行っていく。このことにより、以下の効果を見込む。

- ① 乾燥前の原藻を業者毎に区別する必要がなくなることから、機械のノリ結束テープを切替えがなくなり生産を継続でき、経費の節減を図ることができる。
- ② 経営体毎の切り替え時間がなくなり、オペレーター作業の時間のロスがなくなる。
- ③ 乾燥機を使用するときの交換時間中に起きる重油の空焚き時間が無くなることにより重油の無駄が削減される。

(2) がんばる養殖復興支援事業の活用

- ・事業実施者：宮城県漁業協同組合
- ・生産契約先又は契約養殖業者名：別紙②のとおり
- ・実施年度：23年度～25年度
- ・取組みスケジュール

年度	期間	23年度	24年度	25年度	26年度
検討期間	23年10月～12月	----			
事業期間1	24年1月～4月		——		
事業期間2	24年5月～25年4月			——	
事業期間3	25年5月～26年4月				——

(3) 施設復興計画

施設名	所有者（個人・共同の別）	規格	震災前	復興1期目	2期目	3期目	活用する事業名
養殖施設	共同利用（個人所有）	別紙①のとおり	里浜 59台×4名	70台×4名	78台×4名	78台×4名	養殖施設災害復旧事業
	共同利用（個人所有）	別紙①のとおり	月浜 77台×1名	70台×1名	80台×1名	80台×1名	養殖施設災害復旧事業
のり加工施設 のり乾燥機	共同利用（宮城県漁協所有）	1棟 20連×2台	1棟 20連×2台	1棟 20連×2台	1棟 20連×2台	1棟 20連×2台	農林水産業共同利用施設災害復旧事業
作業船	共同利用（宮城県施設保有漁協所有）、個人所有	16尺～34尺	20隻	20隻	20隻	20隻	共同利用漁船等復旧支援対策事業または個人購入

(4) 生産量及び経営体数

項目	震災前 (21年)	復興1期目	2期目	3期目
生産量（千枚）	11,553	9,800	15,680	15,680
生産金額（千円）	87,229	68,600	119,168	119,168
経営体数	5経営体	5経営体	5経営体	5経営体

(5) 復興に必要な経費

(単位：生産量は千枚、その他は千円)

	震災前の 状況	復興1期目	2期目	3期目
収 入				
生産量(千枚)	11,553	9,800	15,680	15,680
生産額(千円)	87,229	68,600	119,168	119,168
その他生産額	5,775			
経 費				
支払金利	830	500	500	500
損害保険料	1,869	800	1,000	1,000
公租公課	1,662	500	500	500
漁業権行使料	—	700	800	800
漁業施設共済掛金	—	700	800	800
人件費	33,680	25,000	37,200	37,200
その他の経費	1,155	2,500	4,500	4,500
水道光熱費・燃油代	14,489	13,912	18,805	18,805
種苗代	3,597	3,000	3,500	3,500
養殖用資材代	12,173	11,000	12,000	12,000
修繕費	5,254	5,000	5,000	5,000
販売費	5,664	4,116	7,150	7,150
減価償却費	3,607	833	2,500	2,500
施設利用料	19,792	29,000	18,000	16,000
収 支	▲18,143	▲28,961	6,913	8,913
償却・利用料前利益	5,256	872	27,413	27,413

<養殖の生産方法>

ノリの生産期間は11月から4月まで。残りの6ヶ月は養殖の準備期間に該当し、種苗の準備等を行っており、周年作業が生じる。

生産は、秋芽生産と呼ばれる11月から12月時期と、種付けした網を冷凍して保管し、秋芽終了後に張り込みをする冷凍網を用いた生産時期に分けられる。

今回の震災復興に当たっては、第1期は秋芽生産を行わず、冷凍網を用いたノリ生産のみを行い、第2期から秋芽、冷凍網を用いた通常と同じ生産を再開することとする。

<経費等の考え方>

経費は被災前である21年度の決算書類を元に作成した。

経費が復興時期により大きく変動する費目については、以下の理由による。

- ・支払い金利 … 低金利資金への借り換えにより、震災後の金利が減少。
- ・損害保険料、公租公課、漁業権行使料、漁業施設共済掛金
 - … 震災前は、漁業権行使料、漁業施設共済掛金は、それぞれ損害保険料、公租公課として計上。漁業権行使料は養殖施設台数が増加する

- ・人件費 … 2期目より増加。
震災前の人件費は、生産額から生産費用を減じた額を基本として計算。なお、ノリ乾燥機は24時間体制で稼働させるため、雇用費は増加する見込み。
- ・その他経費 … 通信費・交通費等の経費。
- ・水道光熱費・燃油代 … 2期目以降の燃油代は、養殖施設増による沖合作業が増加することから増加を見込む。
- ・販売費 … 水揚げの増加に伴い販売費も増加。震災前実績に従い、生産額の6%と計算。
- ・施設利用料 … 1期目は、ノリ乾燥機の機械一式の修繕及び新品購入に伴い、増加。2期目以降の利用料は通常の利用料となる。

6 復興後の目標

(1) 生産目標

	震災前		10年後
養殖施設数	里浜 59台×4名 月浜 77台×1名		里浜 78台×4名 月浜 80台×1名
陸上施設数	建屋 1棟 ノリ乾燥機20連2台	→	建屋 1棟 ノリ乾燥機20連2台
養殖業者数	5経営体		5経営体
常時養殖従事者数	12人（経営者含む）		12人（経営者含む）
臨時雇用者数	4人		6人
生産量	11,553千枚		15,680千枚
生産金額	87,229千円		119,168千円

(2) 生産体制

共同生産体制を確立することで、経費の削減や作業時間の削減を行うことができ、効率的な生産体制で養殖生産を行い、収支の改善を進めていく。

また、販売については、全量を共同販売により販売していく体制にする。

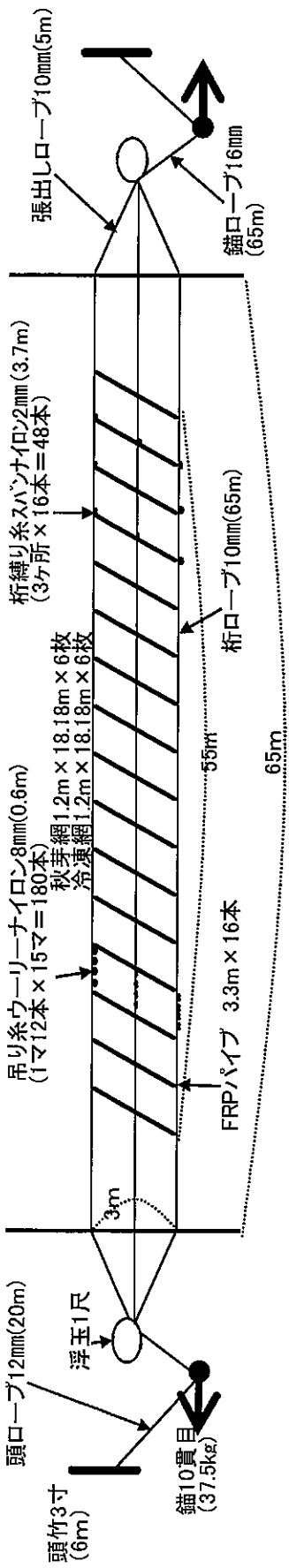
7 復興計画の作成に係る地域養殖復興プロジェクト活動状況

実施時期	協議会・部会	活動内容・成果	備考
23年12月22日	第1回地域養殖復興協議会	・会長の選任 ・運営事業実施計画について	
23年12月22日	第1回宮戸西部支所ノリ部会	・部会長の選任 ・養殖復興計画の検討、承認について	
23年12月22日	第2回地域養殖復興協議会	・養殖復興計画の検討、承認について	

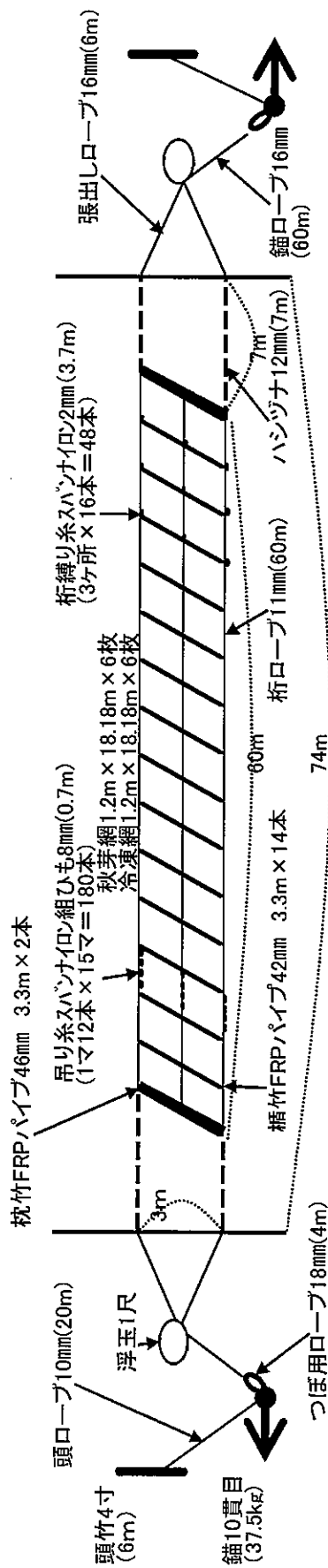
ノリ

宮戸西部支所 浮流式 30間(里)

別紙①



宮戸西部支所 浮流式 30間A(月)



宮戸西部支所 浮流式 30間B(月)

